

インターネットにおけるコミュニケーションの課題と向き合いながら、
青少年を中心とした教育活動やサービスの機能改善に取り組んでいます。
安心・安全なコミュニケーションを楽しんでいただけるよう、教員、保護者、教育機関・
行政機関と連携しながら、青少年の健全なインターネット利用の啓発活動を行っています。

青少年の健全なインターネット利用の啓発活動

より良いコミュニケーションのために



2023年10月更新

*本資料内における「LINE」は旧社名ではなくコミュニケーションアプリ「LINE」を意味します

コミュニケーションアプリ「LINE」



いつでも
どこでも
無料メール

「LINE」は、ユーザー同士であれば国内・海外、通信キャリアを問わず、無料で音声・ビデオ通話・チャットが楽しめるコミュニケーションアプリです。2011年6月にサービスを開始して以来、世界230以上の国と地域で利用されています。

日本国内の「生活インフラ」として定着

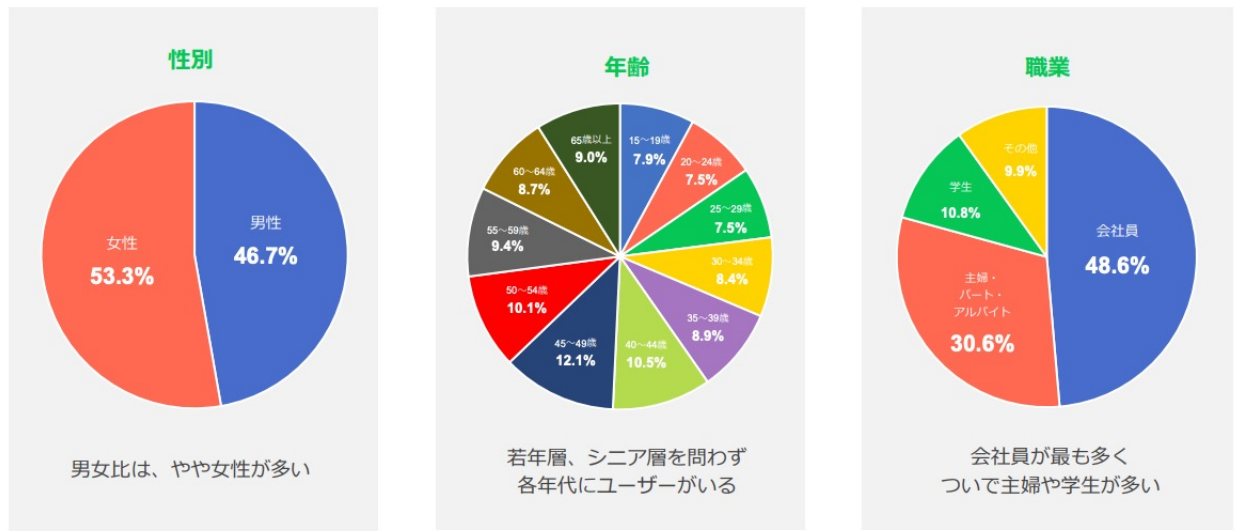
国内のMAUは9,500万人以上。日本の人口の約8割をカバーしています。



※1 自社調べ「LINE」アプリ 月間アクティブユーザー 2023年3月末時点

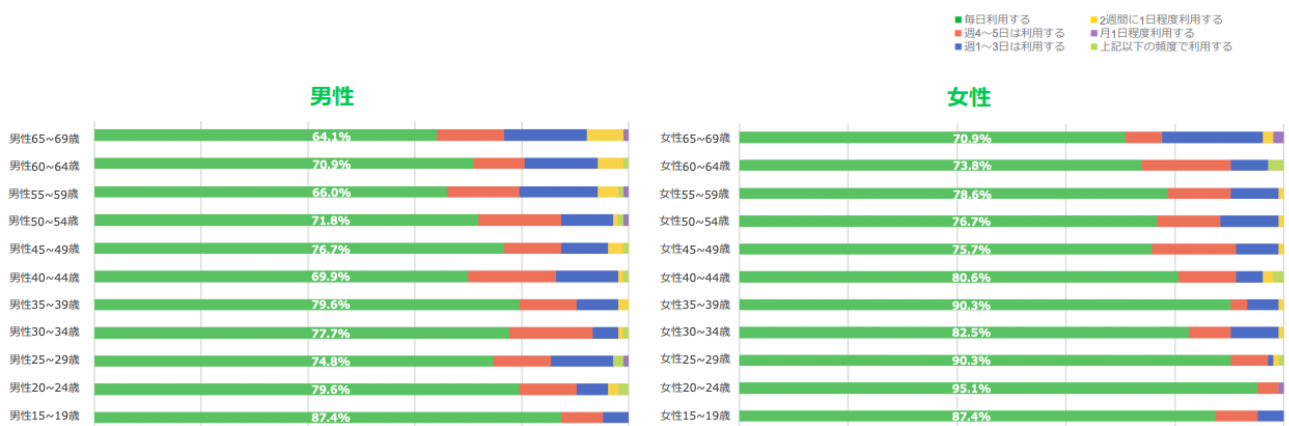
※2 「LINE」の国内月間アクティブユーザー 9,500万人÷日本の総人口1億2475万2000人(2023年1月1日現在(確定値) 総務省統計局)

「LINE」のユーザー属性（性別・年齢・職業）



調査機関：マクロミル・インターネット調査
(2022年7月実施/全国15～69歳のLINEユーザーを対象/サンプル数2,060)

「LINE」のユーザー属性（性年代別の利用頻度）

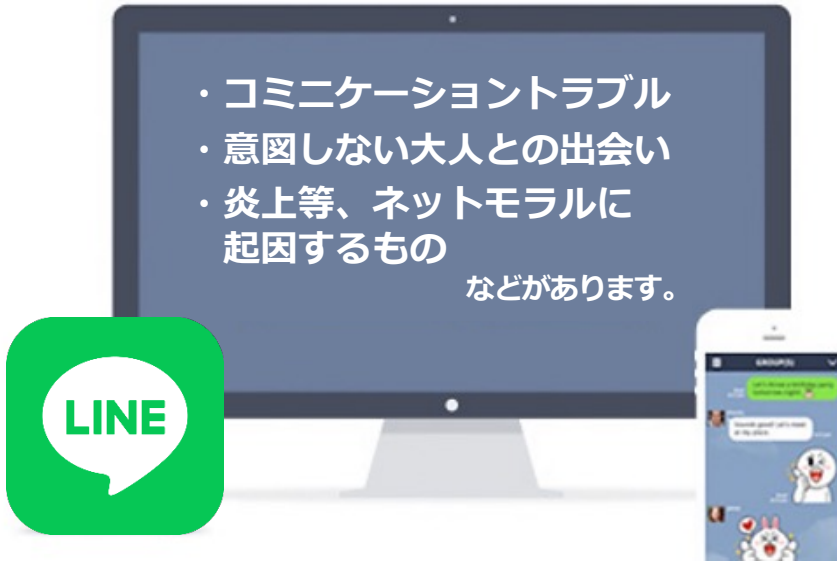


調査機関：マクロミル・インターネット調査
(2022年7月実施/全国15～69歳の「LINE」ユーザーを対象/サンプル数2,060)

「LINE」に関連する青少年が関わっているトラブル

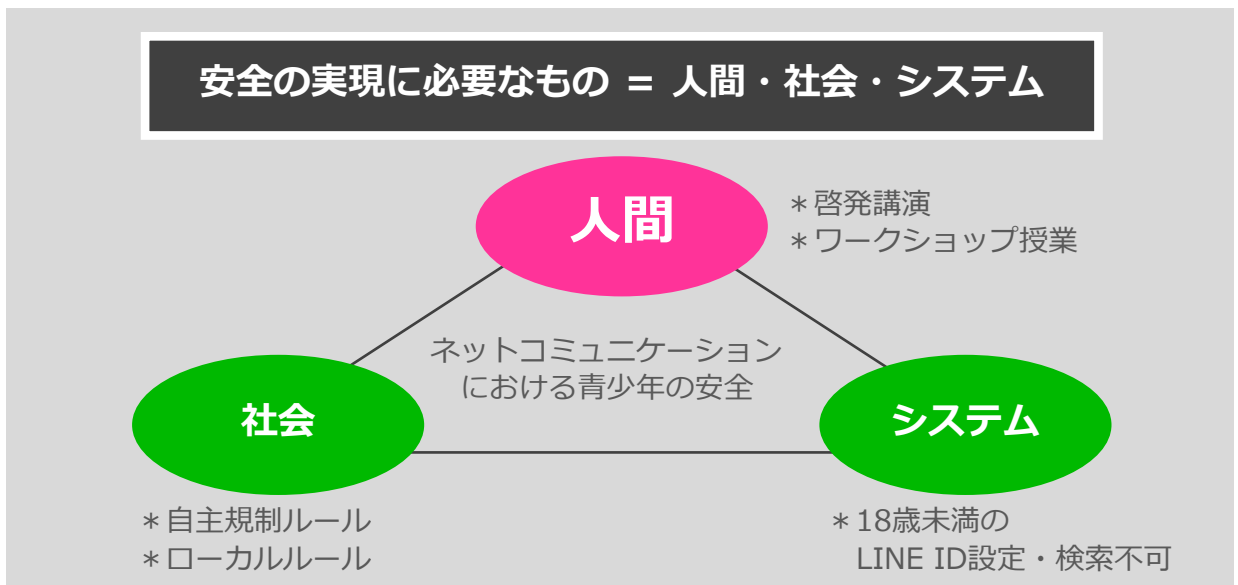
「LINE」は友だちや家族など身近な人と楽しくメールや電話をするアプリです。

しかし、使い方を間違えると大きな事件やトラブルにまきこまれてしまうこともあります。



インターネットを“安全に”利用できる環境を整える

安全な利用環境構築には「マニュアルやルールの整備（組織）や、システム設計（システム）だけでは不十分で、使う人への教育が重要で、“人への教育”が無ければ、組織もシステムも十分に機能しない」という最新の安全学の観点から取り組んでおります。



子どもたちがネットの特性や問題点を理解し、 トラブルが起きた場合の対応を自ら考えてもらうことを 目的とした情報モラル教育教材のご案内

教育関係者さま向けコンテンツ 授業で使える教材を無償で配布

「インターネット上でのコミュニケーション」と
「対面のコミュニケーション」の違いを子どもたちに
学んでもらうための教材を開発しています。子どもた
ちがネットの特性や問題点を理解し、トラブルが起き
た場合の対応を自ら考えてもらうことを目的とした教
材を専門家とともに作成し、どなたでもご利用いた
だけるよう、ウェブサイト(<https://line-mirai.org/ja/download/#b>)で公開しています。



児童・生徒が“自ら考える”教材を静岡大学と共同開発

カード教材を多く取り入れたワークショップ教材となっており、カードやマンガなどを通じて複数のテーマをとりあげ、ディスカッションをすることで、子どもたちが自ら、周りの人との考え方や感覚の違いを実感し、インターネットとの上手な付き合い方や適切なコミュニケーション方法を考える機会を創出する内容となっています。

▶ 教材ご活用のイメージ



<https://line-mirai.org/ja/activities/#b>

▶ 教材のご紹介



<https://line-mirai.org/ja/download/#b>

情報モラル教育 教材 お申込（無料）

<https://line-mirai.org/ja/download/#b>

教材紹介とお申込フォームは上記のリンク先よりご確認いただけます

児童・生徒のインターネット利用時における モラルやリテラシーの向上を目指し、 全国の学校や自治体、関係機関において、 オンラインの講演活動が無償で行っています

児童・生徒に対しては、インターネット上のコミュニケーションのあり方について「自らが考える」ことを目的としたワークショップ授業、インターネットの特徴やトラブルの際の注意点などについて学ぶ講演授業を展開しています。

保護者の皆さまには子どもたちをトラブルから守るためのポイントを、そして教員の皆さまには子どもたちの利用実態や情報モラル教育の実践について伝えています。



情報モラル教育 オンライン授業 お申込 (無料)

<https://line-mirai.org/ja/proposal/#b>

開催概要とお申込みは上記のリンク先よりご確認ください

教育機関との共同の取り組み

教育委員会や大学、企業などと連携し、各地域の実状や課題にあわせ、情報モラル教育に関する共同の取り組みを実施しています。

・東京都教育委員会

東京都教育委員会とは、情報モラル教育活動から得られたノウハウをもとに、「SNS東京ノート」を共同開発し、都内公立学校の全児童・生徒向けに配布しています。

また、東京都の教員・児童・生徒を対象に、「SNS東京ノート」効果測定およびネット利用実態把握調査を実施しています。

(詳細：<https://linecorp.com/ja/pr/news/ja/2016/1304>)

・神奈川県警察・神奈川県教育委員会

神奈川県警察および神奈川県教育委員会とは、インターネット利用に起因したいじめや非行・被害、トラブル等を防止するため、連携して調査・研究を行い、児童・生徒がより安全に安心してインターネットを利用することができるよう、情報モラルの向上と規範意識の醸成を図ること目的に教材開発などに取り組んでいます。

(詳細：<https://linecorp.com/ja/pr/news/ja/2018/2205>)

・宮城教育委員会・仙台市教育委員会

宮城県教育委員会・仙台市教育委員会とは、情報や情報技術を適切かつ効果的に活用しながら問題を発見・解決し、自分の考えを形成する力とともに、情報モラル・セキュリティの理解、責任を持って適切に情報を取り扱おうとする態度＝「情報活用能力」の育成に取り組んでいます。東北大学大学院堀田龍也教授、東北学院大学 稲垣忠教授、宮城教育大学 安藤明伸准教授、静岡大学 塩田真吾准教授のご協力のもと、活動スキル・探究スキル・プログラミング・情報モラルの4つの分野を含む教材「みやぎ情報活用ノート」を開発しています。

(詳細：<https://linecorp.com/ja/pr/news/ja/2017/1929>)

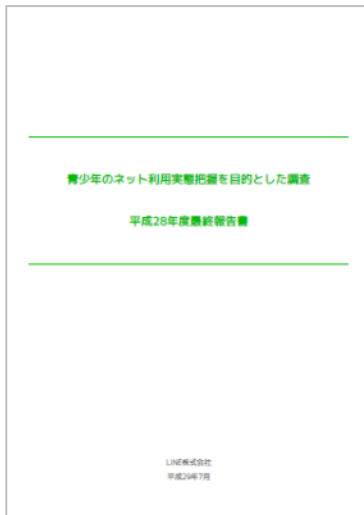
・長崎県教育委員会

東京都教育委員会と共同開発したSNS東京ノートと、長崎県が独自に開発された「情報モラル指導教材及びトラブル対応マニュアル」を踏襲しながら、県内の児童・生徒のスマートフォンやSNSの利用実態データを引用するなど、県の教育方針やSNS利用実態に即した情報モラル教育教材「SNSノート・ながさき」を開発しています。

(詳細：<https://linecorp.com/ja/pr/news/ja/2018/2222>)

各地の教育委員会や警察機関と協力し、青少年のネット利用についての実態調査・研究を行っています

LINEみらい財団の情報モラル教育活動は全て、これらのエビデンスをもとに推進しています。



詳細：<https://line-mirai.org/ja/report/>

講演活動や教材開発で得られたノウハウをもとに、 教員自らが情報モラル教育を実践できるよう、 「SNSノート（情報モラル編）」を開発し、 無料で提供しています

2020年度以降の新学習指導要領の全面実施に向け、全国の地域や学校で、児童・生徒が発達段階に応じて体系的に情報モラルを学習できるように、開発された教材「SNS ノート（情報モラル編）」を無償で提供しております。



詳細：<https://linecorp.com/ja/csr/newslst/ja/2018/190>

より良いコミュニケーションのための取り組み

LINE株式会社（現：LINEヤフー株式会社）では、ユーザーの皆さまにインターネット上のコミュニケーションをより安心・安全に楽しんでいただくために、主に青少年を対象に、健全なインターネット利用を啓発するための講演活動や、情報モラル教育教材の開発、調査研究などを2012年より行っております。この取り組みで得た知見や経験を基に、これからの子どもたちには、デジタル化が著しく進む社会の中で、今まで取り組んできたように身近に溢れるICTを安心安全に楽しみながら使いこなすだけでなく、さらに一歩進み、自ら新しく創り出すための能力を養っていくことが何より重要であると考えました。さらに、2020年からの小学校プログラミング教育必修化の流れも受け、未来のデジタル社会をより良いものにするための担い手の育成を目指します。

お問い合わせ

教育現場へのご活用、教材、教員研修等、
青少年の健全なインターネット利用の啓発活動についてのお問い合わせは

一般財団法人LINEみらい財団 事務局

E-mail : info@line-mirai.org

LINE みらい財団